

## タイの風にふかれて ～タイに行きタイからの始まり～

工学部 知能エレクトロニクス学科 4年

岩佐 琥偉

この時期のタイは気温 36℃前後と仙台と同じくらい、むしろ湿度が高くないおかげか比較的過ごしやすくと感じました。雨季ということもありスクールも多々ありましたがそれもまた一つの思い出といえます。現地では景色や匂い、食や文化、全てが新鮮で驚きの連続。電柱に繋がる電線一つとっても日本とはまるで違います。加えて、関わった人は皆良い人ばかりで、終始お礼を言っていました。TNIの学生は、英語はもちろん日本語は個人差があるものの流暢で、コミュニケーションにはほとんど苦勞することはありませんでした。英語での会話が基本となると思っていましたが、会話する学生によって言語を使い分けるといったかたちでした。日本人は日本語しか喋れない人が大多数を占めていますが、一歩外に踏み出せばそれは甘えであることがよく分かります。

大学はバンコク市内から電車やタクシーを使って 30 分ほどの距離にあり、建物はとても綺麗でした。新たに校舎を建てる予定もあるそうで、ますます規模が大きくなるそうです。学務課においてタイ語を話してはいけない日という我々の大学にはないシステムもあり、母国語以外を淡々と話せるのはそういった取り組みのためのものであると感じました。卒業論文に関しても、我々のものよりも厚く、修士論文を彷彿とさせました。内容はタイ語なので読めませんでしたが、自身も見習わなければならぬと思います。

タイ初日は大学の見学とミーティング、市内観光でしたが、市内までは電車とタクシーを使用しました。タイの交通事情は日本とは全く違います。一般道は5車線ほどあり、車は時速80キロほどのスピードで激走しています。普通車に限らず、バスや原動付自転車も走行スピードは日本とは比べ物になりません。日本人は恐らく運転できないでしょう。電車は日本よりもシンプルで分かりやすい印象を受けました。もちろん、TNIの学生がいないと難しくはありましたが、日本と比較すると簡単です。仙台でいうところの地下鉄東西線南北線に近いと思います。バンコク市内は高層ビルが広がり、ショッピングモールも充実していました。また、いたるところに国王の肖像画が飾られており、タイ国民の国王に対する愛を感じました。タイに滞在中、様々な場所で買物をしましたが、私が訪れたお店の品物はどれも定価が高く設定されていたため、TNIの学生と一緒に値切り交渉を何回もしました。最終的には一人で交渉するに至り、これも旅の醍醐味だと感じ楽しみました。

食に関しては、口に合う物が8割ほどで基本的に美味しく食べられました。辛いものが大半でしたが、旨みのある辛さで、ただ辛いだけではないと感じました。また、ルークチュップという和菓子に近いお菓子や昔からのお菓子もいただき、甘いものから辛いものまで堪能させていただきました。

二日目の企業見学ではトヨタ系列の通信を担当している会社の説明を受けました。会社全体の成り立ちやビジネス、運営方法などとても興味深い内容でした。その後、ワットプラキオと呼ばれる寺院と王宮が一つの敷地にある場所を訪問。拝観料は500バーツでしたが、それに見合う価値のある場所であったと思っています。壁画が多いことは日本の寺と似ていますが、仏像の形や恰好、細かい彫刻は日本のそれとは異なるものでした。本留学のメインともいえる大学祭では白玉企画とポスター発表、個人的にカラオケ大会、ステージ企画を行い、実に充実した時間であったと思います。現地学生の大学祭への意気込みはとても高く、前日準備は深夜に至るまで行なわれていました。我々もTNIの学生達と夜遅くまで準備をし、眠さも忘れて没頭しました。

三日目の当日、白玉ブースに沢山の来客者、学生、先生方が来てくださり、完売することに成功。ポスター展示ブースにも少なからず足を運んでいただき、当初の目的である研究発表も何度かすることができまし

た。TNIにはバイオ系の学部学科がないので説明することは難しかったですが、面白いと言われたときはとても嬉しかったです。目的の達成度でいえばあまり高い点を付けることはできませんが、自分の欠点や語彙力を見つめ直せた点で満足しています。今回は大学祭への参加が主でしたが、次に行く機会があれば授業や研究関連などで訪問し、自身の知識向上を図りたいと思いました。ステージ企画に関しては、心配も多々ありましたが、多くの方に来場いただき、最終的には成功といえる結果で幕を閉じました。

最終日、アユタヤでの観光は二日目をしのぐものとなりました。世界遺産であるワット・マハタートでの木に埋もれた仏頭は長い歴史を感じさせ、首のない仏像達は戦争があったときの悲惨さを表していました。規模もまた壮観で、日本との違いをより明確に感じました。水上マーケットも日本にはない文化で、実に面白かったです。この日を持って TNI の学生達やお世話になった先生方とお別れでしたが、とても満ち足りた4日間であったと去り際に感じました。国際的な交流や研究発表、英会話力向上が今回の目的ではあったものの、それ以上に得られたものは多かったと思います。実際に見て、触れることで、留学前に考えていたタイの印象とは大きく変わりました。参加してはじめて得られた疑問や好奇心も、更に長い期間滞在すれば満たすことができると思います。今後改めて機会を作り、学術的な、そしてまた文化的な交流もよりいっそう深めていきたいと強く思います。



TNI 大学祭にて



TNI 大学祭にて



TNI 大学祭にて



アユタヤ世界遺産にて



アユタヤ世界遺産にて



## 初めてタイに渡航して感じたこと

工学部 知能エレクトロニクス学科 3年

薄井晶子

### ①留学目的の達成度

今回の留学における私の目的は、タイの人たちに日本文化を伝えること、そしてTNIの学生との交流や周辺地域の視察を通してタイの文化を学ぶことでした。4日間という大変短い期間でしたが、どちらも達成できたと思います。

私は日本文化の紹介として、特に和菓子のおいしさを伝えたいと考え、TNIの大学祭でステージでの踊りや歌の披露の他に白玉団子の屋台を出しました。和菓子として白玉団子を選んだ理由は、もう一度食べてみたいと思ったとき、タイの家庭でも簡単に作れるお菓子が良いのではないかと考えたからです。今回用意した味付けは黒蜜きな粉、ずんだ、フルーツポンチの3種類で、特に黒蜜きな粉が好評でした。白玉団子を食べてくれた多くの学生や先生からおいしいというコメントを頂けたので、和菓子のおいしさを十分伝えられたのではないかと思います。

TNIの学生との交流では、皆日本語が流暢だったことに驚きました。日本では中学から大学まで英語を習いますが、流暢に話せる人は一握りです。しかし、TNIの学生は大学に入ってから日本語を学び始める人が多いそうで、彼らの言語学習に対する意識の高さを感じました。私は英語の勉強に力を入れているのですが、外国語である日本語を流暢に話すタイの学生に会えたことはとても良い刺激になりました。

周辺地域の視察では、寺院や遺跡を訪問し、建造物の大きさや煌びやかさに圧倒されました。日本にも寺院が多くありますが、質素な作りのものがほとんどです。同じ仏教でも国によって宗派の違いがあり、寺院の構造も大きく変わることを知りました。また、街の至る所に祠があり、真剣に参拝する人々を見て、タイの方々の信仰の深さを感じました。事前にタイの宗教や寺院について調べていましたが、百聞は一見に如かずと言うように、実際に体験することで、より深く文化の違いを知ることができたと思います。

### ②留学、学習、国際理解への意欲に関する留学前後の意識の変化

私は、実際にタイに行くまでは、バンコクやアユタヤは有名な観光地なのである程度英語が通じると思っていました。確かにデパートやホテルでは英語が通じるのですが、水上マーケットなどではタイ語しか通じないお店が多かったです。また、商品名はもちろんタイ語で書かれているため読めません。なので、TNIのチューターの学生さんに仲介してもらって買い物をしていました。この経験から、海外に渡航する際は現地の言葉を覚えていく必要があると感じました。次にタイに行くときには最低でも数字は覚えていこうと思います。

また、タイの街を歩いていて気付いたのは、日本語表記で「スリに注意」という張り紙が多いことです。日本にいれば、スリに遭うことはまずありません。それ故に、海外に出た時に日本人は一番スリの標的になりやすいのでしょう。タイに限らず海外に滞在するときは、スリ対策をしっかりし、何時も気を抜いてはならないと改めて感じました。

### ③今後の長期留学の意欲

今回の留学では、TNIの学生との交流や、東南アジアの雰囲気を感じることができて、とても有意義な時間を過ごせました。しかし、とても短い期間だったので、機会があれば長期の滞在をしてみたいです。

また、英会話上達のために英語圏の国に長期留学したいとも考えています。タイは英語圏ではなかった

のですが、海外へ行くことへの敷居は下がりました。今回体験したことを他国への留学でも生かしたいと思います。



写真 1:白玉団子の屋台の看板



写真 2:タイの寺院(ワットプラケオ)

### まだ見ぬことを知り

工学部 情報通信工学科 4年  
瀬野広奈

私が泰日工業大学大学祭に参加したいと思ったのは、自分の研究室にいる留学生の方が泰日工業大学の方という事がきっかけでした。彼女のチューターをしているうちに「少しでもタイや泰日工業大学についての話が出来れば話題も広がるのではないか」と思い参加をしました。

今回のプログラムは泰日工業大学の大学祭という事で、私達をサポートしてくれる泰日工業大学の生徒の

方々の協力の元、日本の文化や東北工業大学の事についての発表などを行いました。しかし、それだけではなく、タイ市内見学やアユタヤ市内見学などに行き、日本にはないタイ独自の文化や現代のタイの企業を知ることが出来ました。一番記憶に残っているのは TTNI というタイの IT 企業でした。ネットワーク構築など日本の企業とほとんど変わらない内容でとても驚きました。

変わらないという事でもう一つあるのですが、泰日工業大学で仲良くなった方々とのきっかけに「アニメ・マンガ」がありました。泰日工業大学の方々は日本のアニメや漫画が好きでよく見ているそうです。大学祭でもコスプレコンテストがあり、ここでも日本のアニメのコスプレが多く登場していました。日本やタイでもアニメの面白さは変わらないのだと感じました。「どんなアニメが好きなの?」と聞くと、日本で最近放送しているアニメがほとんどでした。タイでは放送していないアニメをどうやって見ているのかと聞くと、「日本語版を見ている」や「タイ語の字幕を付けられているのを見ている」といった事が返ってきました。「言葉の壁があったとしても、好きなものであるなら関係ない」そんな事を感じました。

タイという国自体あまり分からなかったのが、実際に行くまで不安な所はありました。しかし、バンコク市内は日本とあまり変わらない雰囲気でした。そして、一番驚かされたのはタイの人々は自分の国の文化についてしっかりと理解し、説明できるという事でした。建物の歴史や、道に多く掲げられている黄色と水色の旗の意味など、沢山の事を教えてもらいました。もし、私が日本の事について説明しろと言われてもすぐに説明はできません。それ程、自分の国を大切に思っているという事がとても伝わってきました。私も見習わなければいけないなと痛感しました。

今回のプログラムは約 5 日間というとても短い期間でしたが、それだけでも沢山の事を得ることができました。その中には失敗してしまった事もあります。それは、事前に日本の文化についての発表を準備しなければなりませんでしたが、自分が手間取ってしまったせいで同じチームの人に迷惑をかけてしまいました。チームでしなければならない事が多かったのがとても反省しています。しかし、その反省点も自分にとってとても良い経験になりました。タイへ行った経験を通して、タイの事をもっとよく知りたいと感じました。そして、英語など海外の言語を習ってまた海外に行きたいと強く感じました。それだけではなく、自分の国の文化について他の国の人々に伝えられるようにもっとよく知らなければいけないなと思いました。



## 屋台準備の様子



## ポスター発表の様子

### TNI Day に参加して

工学部 情報通信工学科 1年  
八重柏 紀之

このプログラムの目的はほぼ完遂できた。しかし、パフォーマンスやプレゼンテーションなどこのプログラムに参加するために事前に必要なものをうまく作成する事ができずに、先輩に便りきってしまった。しかし、出発前に何をすべきかを理解できたので、派遣先ではやり遂げられた。

発展途上国は一言でいえば危険な場所である。何をすることも十分に気を付けて行動しなければならないのであろうと、出発前にはそう考えていた。しかし、そんな考えはすぐに一転させられた。確かに危険なところはあった。しかし、そこを除けばたいして日本とほとんど変わらない雰囲気を感じた。気温と湿度は夏の中国地方にどことなく似ているし、歩道は整備されていてもあちらこちら凸凹で歩きにくい、しかし日本も一步田舎へ繰り出せば同じようなもの、人柄もとても良い。言葉さえ聞こえなければ日本にいと錯覚してしまいそうになる。しかし、やはり違う。車どうしの暗黙のルールのようなものや商売の仕方、川の臭い、町のおい、物乞いする親子。錯覚してしまうこともある、しかしすぐに目が覚める。故郷ではないやはりここはタイ王国であると。

タイ人とかかわるのは初めてである、何度か学内でタイからの留学生と話したことはある。しかしほとんど会話という会話をすることはできなかった。

したがって、とても不安であった。しっかりとコミュニケーションをとることができるのかどうか。タイ人の人柄も全く理解していなかったためそれも重なってより不安を増加させた。しかし、それも全く無駄な心配事であった。

英語か日本語どちらかある程度話せる、特に会話に困ったことは学内では殆どない。学外で活動する際はTINIの学生スタッフが一緒に回ってれたので特に困って事は殆どない。TNIの学生スタッフには感謝しても



しきれないほどに尽くしてくれた。本当にありがとう。

貧困格差が酷い。しかもそれが目に見えて解る事など日本に居て解ることはない。タイと日本を比べれば日本の貧困格差など微々たるものである。ともいえる気がする。それぐらいタイにおける貧困格差が酷い。少なくともそれを轟々と感じた。

私は、何かすべきではないのか。考えている、考えているが具体的な納得いく内容は全く出てこない。やはり私は見た目だけ大人になってしまっただけで、まだまだ頭は未熟な子供のままであるということを、再認識できた。

私は早く大人になりたい。そして、今回見てきたものを変えたい、変えることのできるほど能力、力を身に着けたい。

その能力を身に着けるためにも今後、また留学する機会があれば積極的に参加したい。



TNI 学祭にて

TNI Day に参加して

工学部 建築学科 3年

齋藤翔太

### ①留学目的の達成度

私が TNI 短期留学プログラムに参加した理由はタイの方々と交流し、タイの文化・価値観・TNI の大学祭を肌で感じ、日本に帰国してから今回体験したことを様々な方面で活かしていきたいという考えがあったからです。私は現在、大学祭実行委員会に所属しているのですが、東北工業大学の大学祭と TNI の大学祭に異なることがいくつもあり、とても驚きました。TNI の大学祭は大学祭前日の授業終了後から準備が始まり、夜通しで準備を終わらせるということをしていて、学生たちのエネルギーと計画性に圧倒されました。また、自分たちに必要な物は全て自分たちで作るという姿勢がとても工業大学らしいなと思いましたし、参考にしなくてはいけない部分であると感じました。大学祭当日はたくさんの学生がいて物凄い盛り上がりでした。学生一人一人から「楽しもう」「盛り上げよう」という意思が感じられ活気に満ち溢れていた気がします。私も大学祭を



運営する立場として彼らのように大学祭を自ら楽しみ、盛り上げ、それを伝染させていきたいと思いました。

タイの学生たちは、優しい方ばかりでたくさん親切にしてくださいました。仲良くなった学生と話をしていると、みんな学ぶことに熱心でとりあえず勉強するというのではなく、自らがその物事について学びたいから勉強するというふうに純粋な気持ちで勉強していて見習うべき姿勢であると感じました。また、日本人とは違い、誰かの指示を待つのではなく自ら考え行動する力が優れていました。今回私が学べたのはごく僅かであると思うので、これからも TNI の学生とメールなどで連絡を取り合いもっと深く文化・価値観について触れ、タイの素晴らしいことを多くの方に伝えたいと思います。

## ②留学、学習、国際理解への意欲に関する留学前後の意識の変化

TNI の学生がいなかったら生活することは不可能だったなど実感しました。まず、簡単な挨拶を覚えた程度では相手の言葉を聞き取ることができないため全く理解出来ず、コンビニエンスストアで買い物をするのでさえ少し苦戦しました。この出来事で自らの力の無さとタイ語もしくは英語を覚えることがどれだけ重要なのか身をもって理解しました。そのため、日本語以外の言語をもっと学ばなければいけないと強く思いました。また、タイの学生たちと自分を比較したとき、私はまだまだ多くのことが勉強不足で考え方の幅も足りないことが多くあると感じました。それにより、もっと学ぶことに意欲・熱意を持ち、これからの学生生活はなんとなく何かをするのではなく、必ず目的・目標を持って行動しようと思いました。タイの学生から感じたことは他にもあり、彼らは計画性に優れていました。何かをするときはまず、そこにたどり着くまでの道筋を考え、妥協などは一切せず、努力を惜しまないという姿勢がありました。私の場合はたどり着くためにとりあえず進み、結局時間が足りなくなるのでどこかを妥協するというのが今までだったので、これからは時間に余裕を持ちスムーズに進むため事前の道筋を考えるということをしていこうと思いました。TNI の先生がタイは貧富の差が激しく大学に通えない生徒もたくさんいるという話を聞いて、TNI の学生が必死になって勉強する理由が少し分かった気がします。それに対し私は恵まれた環境にあるので、私は彼ら以上に頑張っただけ勉強しないといけないと思いました。

## ③今後の長期留学の意欲

今回のプログラムを通して、これからもタイやその他にもたくさんの国の人の考え方を吸収したいと思うようになりました。海外では英語が必要不可欠なため英語力を飛躍させたいと思います。また、タイと日本が交流するイベントがあった際は必ず参加し、私が今回知ることができなかったことをたくさん学びたいし、私自身もっと日本の文化を理解し、たくさん伝えたいと思います。

## ④まとめ

今回の短期留学プログラムでタイの文化、人柄、価値観、世界観など様々なことを感じ取り学ぶことができました。日本よりもタイは貧富の差が激しく、貧困で苦しい生活をしている人もいると聞きました。そういう他国の現状を知り、日本に住んでいる私たちは小・中・高と当たり前のように進み、大学生になる選択肢も与えられるので、とても恵まれた環境にあります。アルバイトをして遊びに行っているなんてことをしているより、学校に通えることに感謝し、勉強をすることがどれだけ大切なことか改めて実感しました。私たちがタイから帰ってきた後、タイでテロがあったというニュースを見ました。私は今回あまり感じられませんが、治安も日本と比べると酷いところがたくさんあるんだと思います。まだまだ世界には私の知らないことがたくさんあり、知らないまま終わることもたくさんあると思いますが、語学力を身に付け多くの異文化を知っていけるようにこれから頑張りたいと思います。

## 泰日工業大学大学祭に参加しての活動報告

ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科 3年

今川可南子

### ① 留学目的の達成度

私は、約半年前に今回のプログラムに似たプログラムに参加しました。そこでは尊敬できる先輩方や仲間がたくさんいて、もう一度他国の学生と交流できるプログラムに参加したい思いがあったため今プログラムに参加しました。タイに行く前の準備から楽しくて、勉強と準備の両立ができたのに自身の成長を感じています。グループでの発表や自身の発表内容、白玉づくり等を一か月間で企画し、実行できたことがいい機会だったと思います。私は、他の国の学生と交流するのが好きで泰日工業大学の友達がたくさんできました。日本語が上手な学生が多く、驚きましたが授業数を聞いて納得しました。日本では使えない英語を授業でやりますが、日本人も英語を話せるように使える英語の授業をするべきだと思いました。今回は、日本語・英語・タイ語を交えて会話していたことに自分自身も驚いています。特に英語の存在は大きかったです。英語で会話ができる機会は日本では毎日経験するわけではないので、交えて会話することができて楽しかったし、もっと上達して多くの学生とコミュニケーションを取りたいです！

大学祭前日の準備は、学生も遅くまで残って作業していて高校時代を思い出しました。夜まで残って練習や作業をするのは、学生のうちしかできない行事だと思います。大学祭当日も朝早くから白玉を作り、あっという間に完売しました。白玉を販売できてよかったと思います。ポスター発表は、英語だけでなくやっぱり”タイ語”で発表できたらもっと人が集まってきたのかなと思いました。私たちは、せんべいと金平糖を紹介していたので、日本からこれらを実際に持っていき、どんな味なのか体験させることでより日本の食べ物を知ってもらう工夫をしました。そして、タイは緑茶や抹茶が好きな人が多く、日本から持っていったお茶パックが役に立ちました！抹茶のパックをあげたら予想以上に喜んでくれたので、次回のお土産もお茶にしたいと思いました。ステージ発表は、精一杯やることができ、歌を歌うと学生らも一緒に歌ってくれました。よっちょれ(ソーラン節のような踊り)は迫力があつたと思います。泰日の学生とも一緒に踊りたかったです。最高の旅でした！



写真1 大学祭前日の学校



写真2 ステージ発表 ENDING

## ② 留学、学習、国際理解への意欲に関する留学前後の意識の変化

留学前よりタイ語のあいさつを教わりました。タイ語で「はじめまして」がなかなか言えなくて苦労しましたが、今は言えます！実際、タイについてみるとタイの人は優しくて、空港に着いたときの宗教的な威圧感がなくて安心しました。タイにいる人々を見てみると、外国人が多くて多様な人種が混ざっていました。なので、素肌を出している我々に驚かないのだなあと思いました。私は、留学前よりもっと国際理解への道が開けてきています。日本では体験できない英会話が自然と成り立つ環境にいれることが何よりの幸せです。よっちよれ（ソーラン節のような踊り）をステージで踊り終えたとき、泰日の学生から話しかけてもらえたことが何より嬉しかったです！そして、日本では偏見されるオタク文化のアニメやコスプレを取り入れている光景は仙台では見ることができない光景だと思います。アニメやゲームは外国の人との話しのネタになり、私はゲームが好きなのでゲームの話して盛り上がりました。また、音楽を通じて仲良くなることができ、久しぶりに音楽トークができたので楽しかったです。まだまだ、外国人とコミュニケーションを図りたい意欲があるので、国々のマナーや言葉を覚えていきたいです。

## ③ 今後の長期留学の意欲

今後も積極的に留学をしたいと思っています。まだまだ知らないことがあるので世界に飛び出して、自分の研究など発表したいです。これからの課題として、英語のあいさつ、マナーを覚えたいのもっと経験を積みたいです。

目標は日常英会話をする事です。そして、外国人の友達と英語のみで話しができる環境に行きたいです。日本の価値観と外国の価値観は違いがあって、同世代の人でも国によって考え方が違い、違う考えを知るのが楽しいです。私が悩んでいるとき、外国の友達から「日本は平和だから、もっと幸せに過ごしてほしい」と言われ感銘を受けました。国によっては紛争やテロがあり、常に危険があることを教えてくれました。こうやって互いを尊重し合えることの大切さも教えてくれます。だからこそ、海外に出て、様々な人たちに出会いたいと思っています。今は戦争がないけども、コミュニケーションを取っていくことは必要だということだと思っています。

今回タイの案内や通訳などいろいろお世話になったので、泰日の学生が日本に来て会う機会があれば案内をしてあげたいと思っています。



写真 3 ナイトマーケットのバーで交流会





写真 4 ポスター紹介と和菓子のサービス



写真 5 企業訪問前車内

### タイで見つけた自分らしさ

ライフデザイン学部 安全安心デザイン学科 3年  
佐藤真美子

今回、東北工業大学を代表して、8月5日に開催された国際交流協定校の泰日工業大学の大学祭に参加しました。タイの大学祭ではたくさんの出店やコスプレ・カラオケ大会が行われて日本の大学祭以上に盛り上がりを見せていました。聞いた話によると、彼らは翌日から準備を始めるにもかかわらずどの出店や展示のクオリティの高さに驚きました。そんな中私たちは、大学・宮城の紹介コーナーと白玉の出店を開いて、タイ人

に振る舞いました。どちらにも興味を示してくれる方がたくさんおり、大盛況でした。ステージ発表では、一人ひとりがタイ語で自己紹介をし、アニソン、よっちょれソーラン節、大学紹介を披露しました。どの場面でもタイ人が一緒に盛り上げてくれたので、一方的な発表にならずに楽しんでもらえたのを実感できたと思います。個人的に面白かったのが、学祭中場所を移動してずっと踊っている1年生の集団でした。何の踊りなのか尋ねると、学祭の踊りで学生なら誰でも踊れると言われました。

タイに着いてからは、毎日タイ人の学生と一緒に行動してくれて、お店の注文から電車の乗り方等わからないことがあれば全て教えてくれたので、スムーズに行動できたので本当に感謝しています。滞在中は日本のタイフェスでは見たことがないタイ料理をたくさん食べることができました。全てが日本人の口に合うわけではありませんが、酸っぱいと辛いのが混ざった味付けがタイでは主流で、本場で食べるトムヤムクンの味が忘れられません。コミュニケーションを円滑に図るために難しいタイ語に挑戦したり、タイ文字を書く経験ができたことも私の中での思い出になりました。積極的にタイの学生に教わったので、タイ語もタイ文字も褒められました。

短期間ながらもナイトマーケット、水上マーケット、ワット・プラケオ、世界遺産のアユタヤ等を見学しました。タイは物価が安く値切り交渉も出来る場所もあるのでマーケットでの買い物はつい買いすぎてしまいます。ワット・プラケオやアユタヤはとても観光客が多いです。これらの場所ではタイ人は無料で入ることが出来るのですが、外国人は有料でした。とは言えやはりどの観光スポットも迫力があり、異世界にいるような感覚さえあったので行くことが出来て良かったです。

何と言っても海外渡航の醍醐味は、外国人の友人を作ることだと私は考えます。実際に TNI の学生はとてもフレンドリーだったのですぐに打ち解けることが出来ました。日本語能力も高く、ゲームをしたり話が止まらなかったです。

すべて順調だったので今回の短期留学は大成功に終わったと思います。

私はタイに行く前から国際理解に関心があったので、機会があれば外国のことをもっと知りたい、外国人と関わりたいと常々考えていました。以前マレーシアに行った時の反省を元に、タイでは着眼点を変えて生活してみました。小さなことでも何でだろうと思ったらすぐ聞いてみたり、メモ癖をつけたりしているうちに自分でも更に興味をわき、楽しくなってくるのです。なかなかこのような自分を変えるための経験は出来ないの、帰国した後もより多くの人にタイのことを知ってもらえるように SNS に写真を投稿しました。食べ物やファッション



も意識して取り入れて生活しています。行く前は知らなかった魅力をたくさん吸収して帰って来ることが出来たのだと思います。今後もフィールドを広げて仙台に住む留学生と交流を図ったり、東北工業大学に来てくれる外国人をもてなそうとおもいます。

タイの学生とアユタヤで

## 4日間プログラムで感じた事

ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科 3年

西城理華子

私はタイ・バンコク(アユタヤ)へは、今回を含めて二回目の訪問でした。タイへの全体的な印象は、一回目に行った時とはさほど変わりませんでした。TNI 周辺や、バンコクの繁華街も短い期間でありながら多くのところを回りましたが、新しい変化は特になく懐かしいという感情がありました。しかしそれは悪い意味ではなく、逆に去年の夏にバンコク市内であった爆発テロがあったにも関わらず変化が見られないというタイの人々の活発さを感じられました。あくまでも観光客としてみた目線であるからそう見えるのかもしれませんが、私にはとても驚かされました。加えて私は前回の参加では、TNI への訪問がほとんどなく学生とは毎日関わりながらも、日ごろ大学でどんなことをしているのかどんな環境で勉強しているのかを知ることができませんでした。今回の参加で、大学祭や事前準備や構内見学を通して TNI の学生の印象はすごく意欲的であることです。自分の好きなことや、やりたいこと、得意なことを大学で勉強しそれを活かしているのが伺えました。私はそれを見て関心し彼らに対して羨ましいと感じました。TNI の教養学部には終日、先生と話すときはタイ語が禁止の日があることや音響関係専門のスタジオが存在するなど工大にはない学生が学ぶための環境がありました。私は、今回の研修をする目的に前回タイに訪れて知ることが出来なかったことや、帰国後知ったことを実際に見てみたいと考えていました。その中に、TNIの学校や通っている学生を実際に見ることも含まれていたのでも目的を達成することが出来ました。さらに目的の達成が出来たのは日本で行った事前研修や、大学祭に向けて準備があったからこそであり、前回より大学の代表として TNI に訪れたという意味のある研修が出来たと感じています。大学祭の中ではステージ発表やブースを設置して日本や仙台、工大の紹介を行いました。TNI の学生達からの手伝いを借りながらも、初対面の TNI の学生に作成したポスターについて説明を行いました。最後には、手伝ってくれた TNI の学生たちに躍りで使ったはっぴやバチをプレゼントしました。それらを通して前回感じた何もかも用意してくれた TNI の学生へ何かしてあげたいという目的が達成できました。しかし、大学祭のブース展示の役割は、工大の紹介であり留学目的の一つであった環境に関しての交流は学生と出来なかったです。TNI の大学祭の雰囲気は、工大祭の雰囲気よりもカラフルなパネルや装飾した学生達が多くどちらかというと高校の文化祭に似ていると感じました。出店を出しているのは、経営学部の学生達がマーケティングの授業の一環で行っていました。私達も白玉の販売を行い想像以上のスピードで売れ行きでした。お餅は癖の強い食べ物である印象が強かったですが、タイ人には好まれるのだと知りました。

私は、今回の訪問の中で TNI の学生とタイのことや学生自身の宗教に関することなどたくさん話をしました。日本と共通していることやしていないことなど異文化理解を深められたと感じています。さらに、前回タイ語は難しいと考え学ぼうとしてなかった反省を含め料理の名前や地名や駅名や電車の乗り方など TNI の学生に質問しメモを取り、次タイに来たときはタイ人なしでも動けるぐらいの知識をつけようと努力しました。それに協力してくれた TNI の学生も雑談をするよりも楽しそうにタイ語やタイについて教えてくれたので仲良くなるのも早かったです。私もソムオーさんやジェーンさんが短期留学の際に日本語や宮城県のことを説明したときに感じた、自分の住んでいるところについて教えて理解してくれることに対して嬉しいかったことを思い出しました。私は、自分が留学生として海外に行ったときにどんな対応をすれば外国人と早く打ち解けられるのかを考えたことがありませんでしたが、今回自分が留学生として話す相手の国について意欲的に質問するという行動を起こすことで知ることで早く打ち解けあうことが出来ることを知ることができ、留学前には意識することが出来なかったことを意識することが出来ました。



企業訪問では、バンコクのオフィス街に行きました。TNI 周辺の雰囲気やバンコクの繁華街であるサイアムと違った雰囲気がありました。訪問企業のオフィスの近くは高層ビルも多かったですが、公園も多くバンコクで訪れた場所の中で一番好きな場所だと感じました。訪問企業の TIT ネットワークでは日本人の社員もいて、アジア就職という選択をした日本人を実際に見てなぜバンコクに就職した動機を聞くこともできました。企業の行っていることについては、内容が難しく理解度は高くないですが、就職の視野を広げるきっかけになりました。大学三年の後期を目の前に、いずれはアジア就職という選択も考えられますが、長期留学の可能性は低いと考えます。ですが、新しい場所へ研修や旅行に出かける楽しさは変わらないと感じ、これからもたくさんの方に訪れてその国独自のことを直に感じたいです。



TNI Day (August 5, 2016)

## 大きな経験と成長

ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科 3年  
鈴木 誠司

私の今回の1番の留学の目的は、私たちの大学祭の発展を目指すために泰日工業大学の大学祭を見学することでした。前日の準備の時間から見学させていただきました。まず初めに、夜から準備を始めるという事に驚きました。夜通しで準備を完成させるのは私たちでは考えられなかったです。ほんの数時間で準備をするということは、集中力と迅速性に優れていると感じました。またテントはありませんでした。テントを使いたい屋台は、パイプのようなものを代用してテント的なものを作っていました。それに対しては驚きと感心しました。大学祭当日、開会式から参加させていただきました。泰日工業大学学長挨拶から始まり、成績優秀者表彰、大学に金銭寄付してくれた方々への表彰が行われました。私たちの大学祭では開会式は行っていません。来年度から学長挨拶や大学祭に協賛してくれた方々への表彰を行う開会式は行えると考えました。協賛してくれた方々に表彰を行うことで、今後とも協賛していただけるように良い関係を築けると思いました。開会式が終わり外へ出るとものすごい賑わいを目の当たりにしました。ほとんどの生徒が参加し、屋台か

ら飛び交う声、私たちの大学祭では見たことのない活気のある学生たちの姿を見ることができました。学生屋台が非常に賑わっていることはとても良いことであると感じました。私たちの大学祭にも多くの工大生を参加させることは毎年の大きな課題であるため、泰日工業大学を見習い、早く克服したいと思いました。克服することにより学生屋台を始め、様々な企画で活気を生み出せると思います。次にステージ企画を見学しに行きました。泰日工業大学は横に非常に長い作りであるためステージを 2 つ設置していました。カラオケ大会やコスプレ大会などそれぞれのステージで使い分けていました。建物の構造をうまく利用していると感じました。今回の留学の目的は大いに達成することができ、今後の工大祭に生かしていきたいと思います。

留学、学習、国際理解への意欲に関する留学前後の意識の変化については全く意欲が変わりました。留学に対する意欲は俄然高まりました。留学する以前は 1 回は行ってみたい、言葉が話せなくても通訳がいるからいいだろうと軽い気持ちで飛行機に乗りました。現地に着くと知らない言葉が飛び交っていることに少し恐怖感を覚えました。泰日工業大学の学生と交流し始めると、驚くことを話されました。学生たちは母国語のほかに英語、日本語を話せる人が多いということでした。さらには流暢に話す日本語よりも英語の方が話せるということでした。私は、自分自身がどれだけ愚かで、頭が悪いのかと感じました。屋台や店に行くとき日本語は通じません。通じたとしてもかろうじて英語でした。電車やタクシーに乗るにも文字が読めない、話せないと自分の力では目的地に行けません。ほとんど自分自身の言語力では会話をすることができないということに歯がゆさを感じました。

タイに関してはまだ発展途上国です。日本とは全く違います。バイクには 3 人まで乗っている、ヘルメットは個人の自由、日本の交通ルールでは考えられないことばかりでした。食事の違い、正直口に合わない食べ物が多かったです。日本では見られない景色や風景も多く見ることができました。戸惑いが多くありましたが、その中で生活をしていくにつれて、もっとこの国のことを知りたい、自分の言葉で会話をできるようになりたい気持ちに変化していきました。

帰国してからはもっといろいろな国へ行き、多くの文化に触れ合いたいと思うようになりました。そのためには、語学力を身に付ける必要があります。一早く語学力を身に付け、学生の内にできるだけ多くの国へ留学していけたらと考えています。多くの国へ行くことにより、また大きく人間として成長していけると考えています。



泰日工業大学祭後の集合写真